

## 丸亀城石垣保全事業

### (1) 事業の必要性

丸亀城南西部の石垣崩落による復旧工事に伴う石垣背面の調査や、崩落のメカニズムを調査する中で、遺構保護のためには、適切な雨水排水処理が重要であるということが分かってきた。

以上のことから、降雨時に水溜まりとなる範囲の改善を図るなどの雨水排水整備を優先的に実施する。

### (2) 事業内容

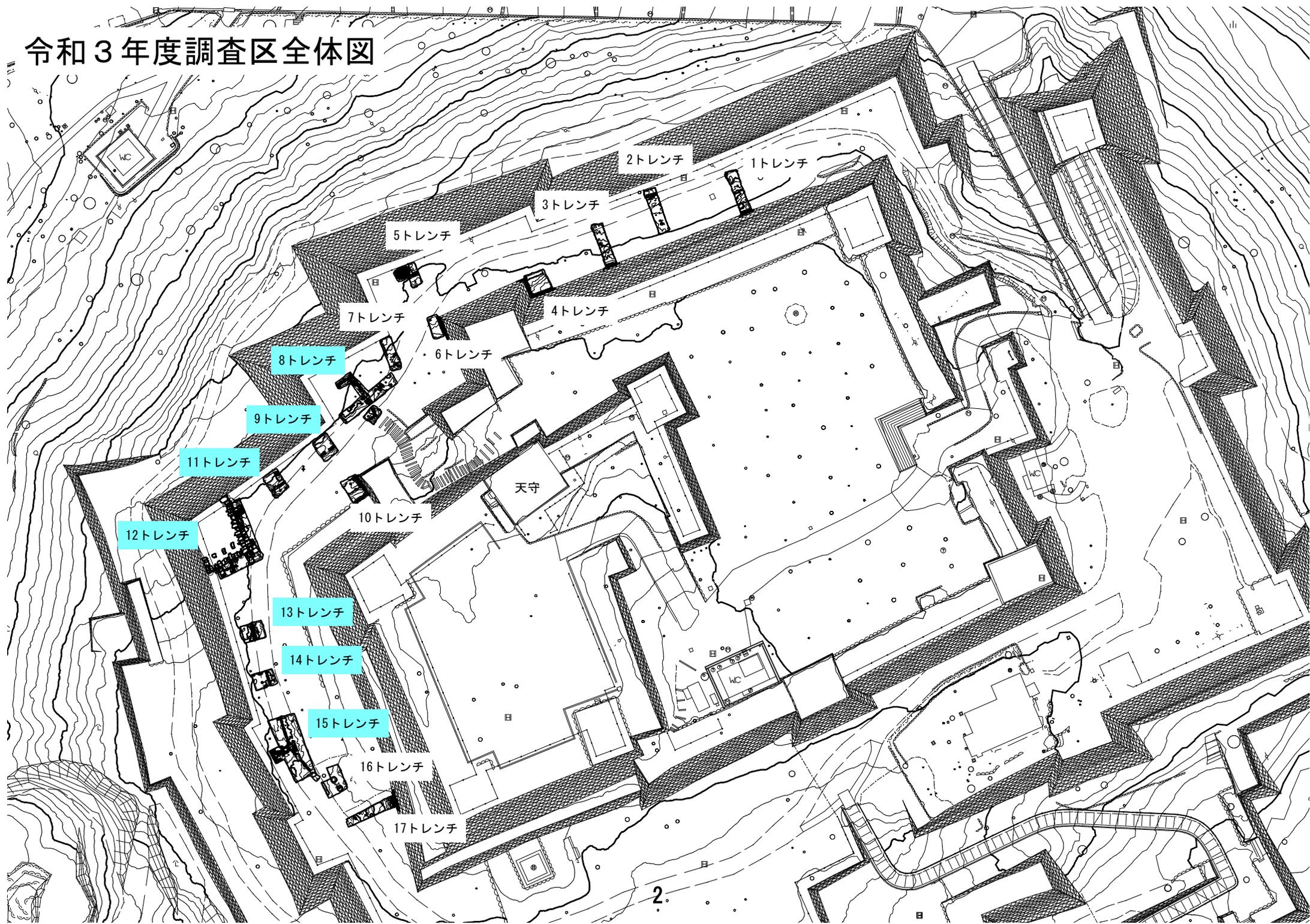
丸亀城全体の雨水経路や既設の排水施設を対象とした雨水排水対策業務成果を踏まえ、雨水排水整備は景観になじむ表面舗装、排水路の新設及び改修を基本と考えている。排水路を新設する範囲については、既往の発掘調査履歴、及び整備履歴がなく、地下の遺構状況が不明である場合は事前に発掘調査を実施し、遺構面の高さや排水遺構の有無を確認する。発掘調査により江戸時代の排水体系が確認された場合については、調査成果を排水路の流路設計に反映させる。

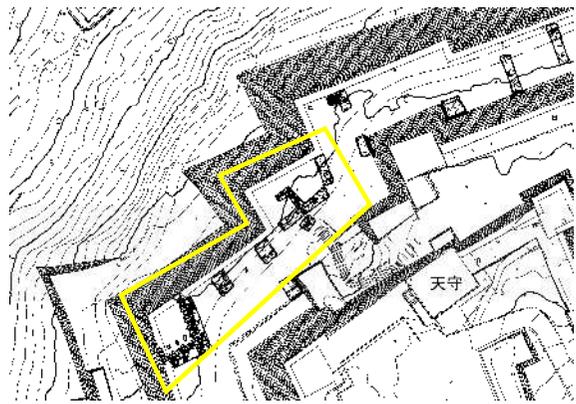
雨水排水整備は現在実施中の丸亀城天守耐震診断によって示される今後の方針や、丸亀城南西部石垣復旧工事等により事業範囲が制約されない三の丸石垣北側、および二の丸から実施する。

### (3) 令和4年度事業

- ・二の丸排水路測量業務
- ・二の丸排水路実施設計業務
- ・二の丸排水路設置工事

# 令和3年度調査区全体図





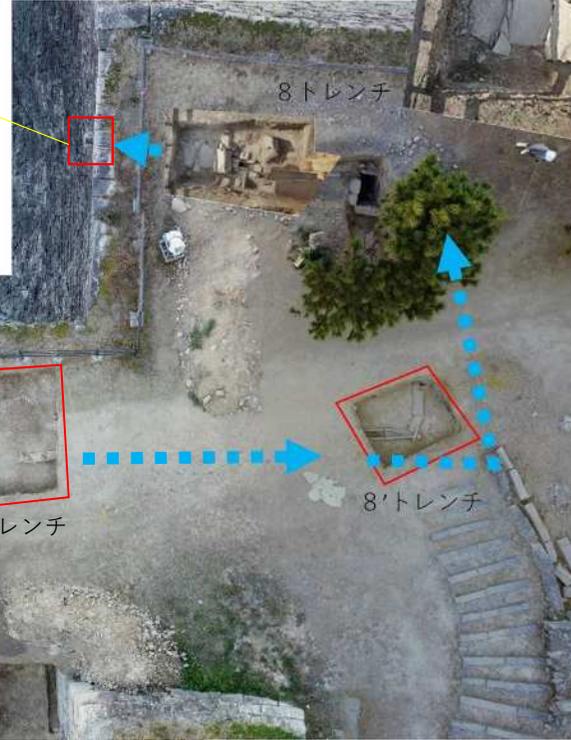
写真の範囲



石樋



雨水が流れる方向



8トレンチ

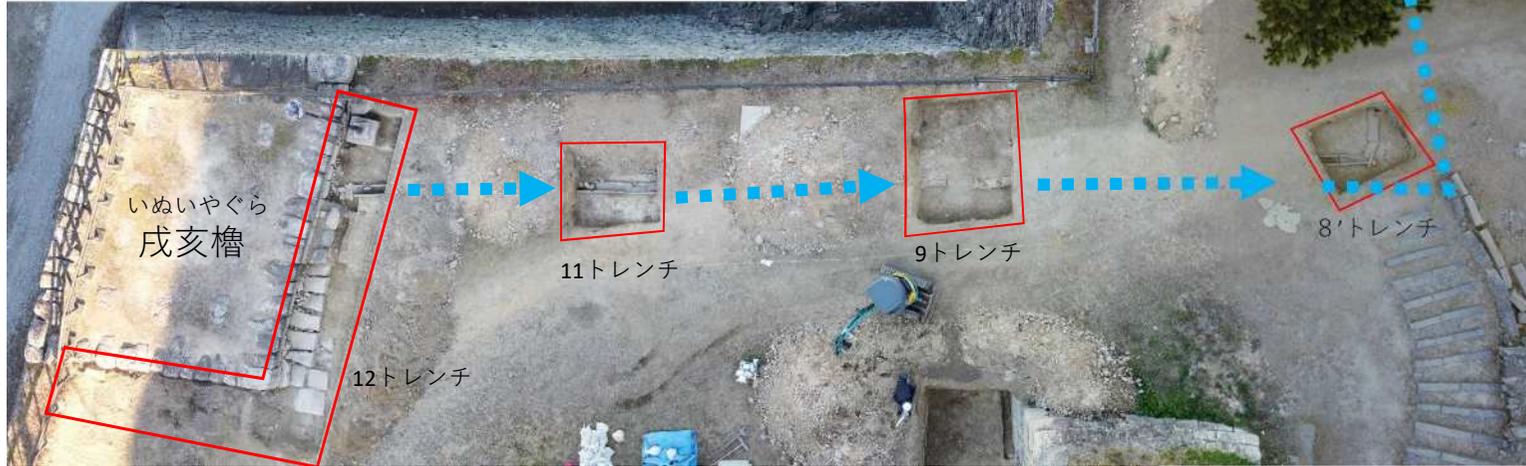
9トレンチ

11トレンチ

8'トレンチ

集水桝

土管



いぬいやぐら  
戌亥櫓

12トレンチ



12トレンチ



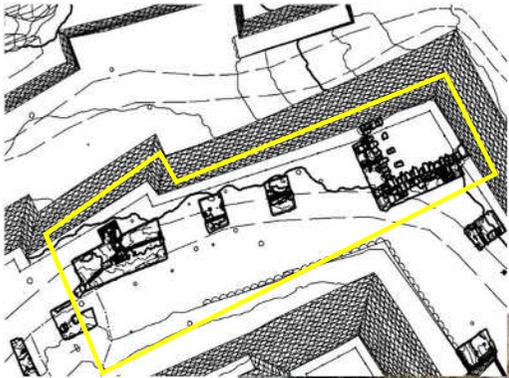
11トレンチ



9トレンチ



8'トレンチ



写真の範囲



石樋

雨水が流れる方向



14トレンチ



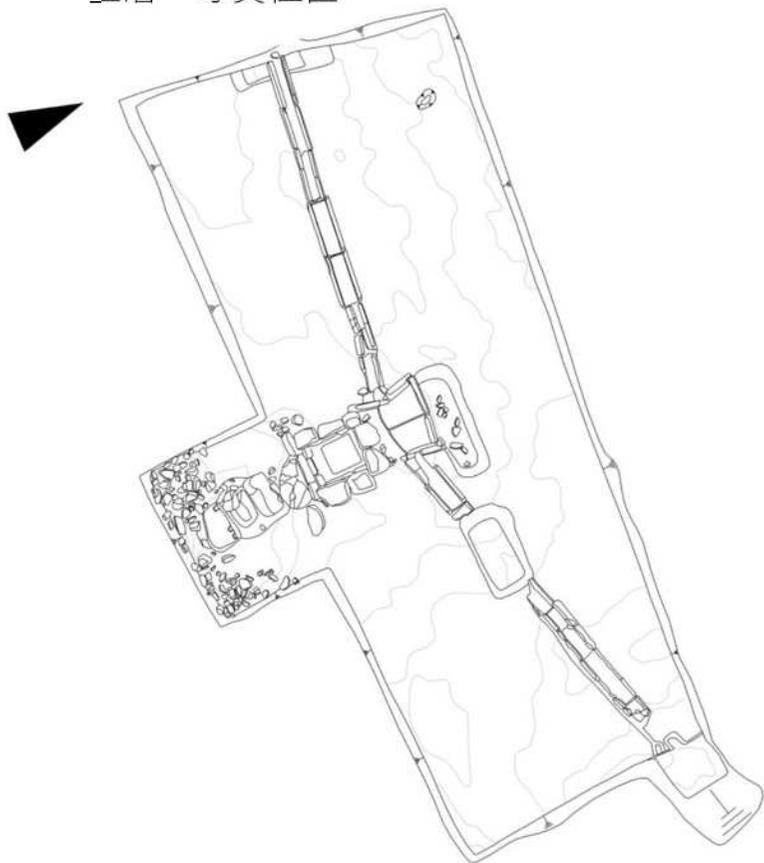
13トレンチ



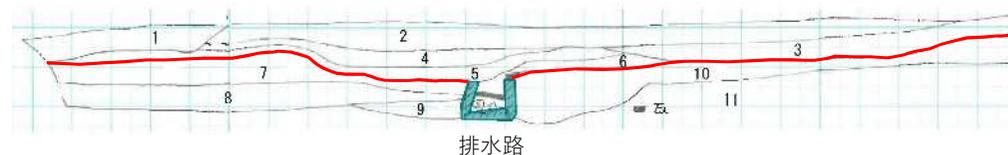
12トレンチ

# 15トレンチ

土層・写真位置



## 15トレンチ北壁土層

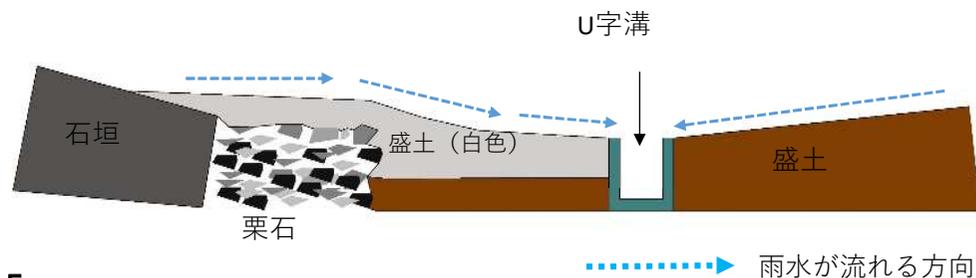


..... U字溝設置時の地表面

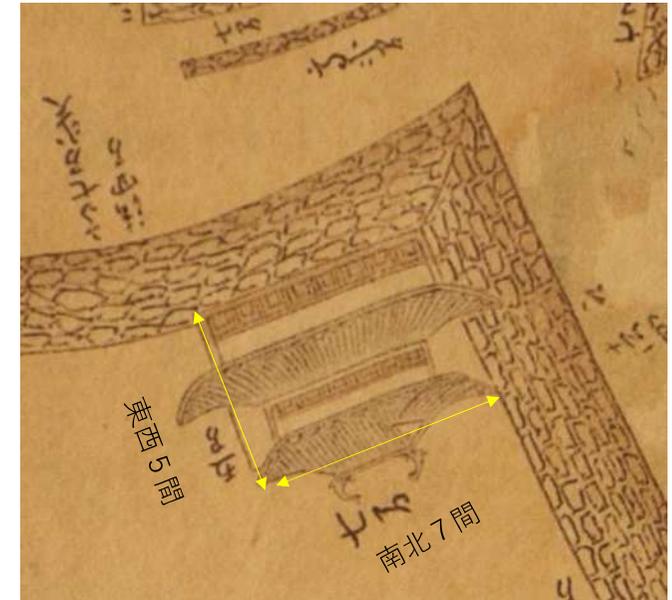
1	樹痕攪乱	
2	造成土	花崗土
3	表土	
4	2.5Y6/2 灰黄色細砂 (φ 1cm程度の礫含む)	
5	2.5Y7/2 灰黄色細砂 (ラミナ層)	
6	10YR7/3 にぶい黄橙色 ~ 10YR7/2 にぶい黄橙色極細砂	
7	10YR7/3 にぶい黄橙色極細砂	石垣構築白色土
8	10YR7/3 にぶい黄橙色細砂	
9	2.5Y6/3 にぶい黄色細砂	
10	10YR6/2 灰黄褐色細砂 (真砂土含む)	盛土
11	10YR7/2 にぶい黄橙色極細砂	

凝灰岩製のU字溝に向かって両側から雨水が集まりやすいよう緩やかな勾配がつけられており、石垣側には築石の背後からU字溝まで白色土が敷設される。この白色土は調査期間中の雨天においても、ゆるまず水を浸透させにくい性質をもつことがうかがえることから、雨水を石垣内部に浸透させず、適切にU字溝へと流すことを期待して敷設した可能性が考えられる。

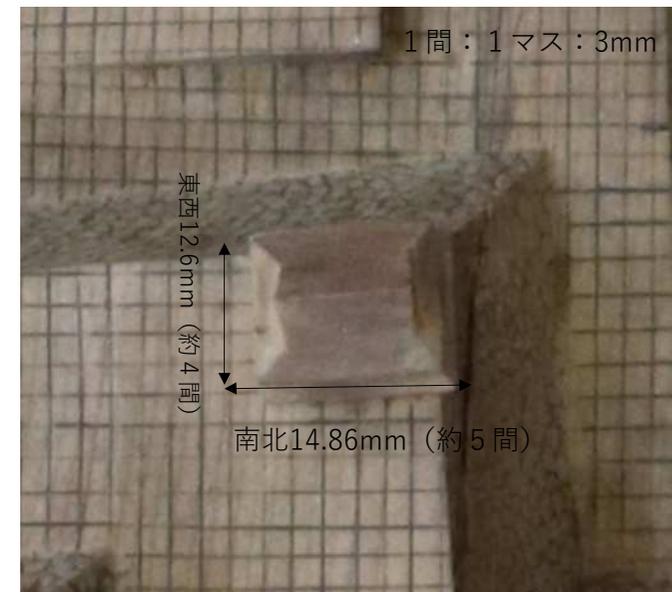
## U字溝設置模式図



.....▶ 雨水が流れる方向



山崎時代の丸亀城郭絵図（1657年頃）



丸亀城木図（1670年頃）

戌亥櫓台石垣の下層から地上部の石垣と形の違う別の石組が2つ検出され、櫓台が2回に渡って改修された可能性が考えられる。

改修に関する文書史料は残らないが、戌亥櫓の規模が推測できる「山崎時代の丸亀城郭絵図」、丸亀城木図を比較すると一回り小さくなることが確認できる。今回の調査で確認された凝灰岩製のU字溝は最終段階の櫓台石垣（東西7.8m、南北9.75m）にとりつくことから、京極時代に設置された可能性が高い。

# 令和4年度事業

- ・ 二の丸排水路測量業務
- ・ 二の丸排水路実施設計業務
- ・ 二の丸排水路設置工事

